

企画展 いしかわの工芸 歴史の厚み ～加州刀と加賀の工芸～



《刀 銘加州金澤住藤原清光作》
—「いしかわの工芸 歴史の厚み ～加州刀と加賀の工芸～」より—

- 企画展 いしかわの工芸 文化の深み ～わざの美 表現の美～
- 特別陳列 前田家の名物裂【前田育徳会尊經閣文庫分館】
- 琳派【古美術】
- 優品選Ⅰ【近現代工芸】
- くらしと風景と【近現代絵画・彫刻】
- 優品選【近現代絵画・彫刻】

- 9月以降の展覧会予定について
- 美術館のお仕事紹介（蛍光灯の交換編）
- 9月の行事予定
- アラカルト ただいま展示中

前田家の名物裂

9月5日(土)～10月18日(日) 会期中無休

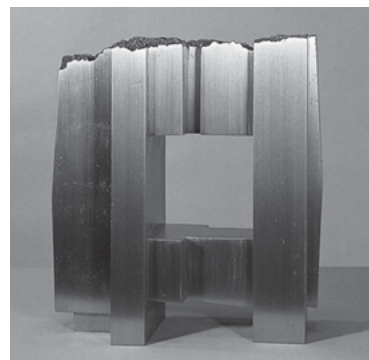
いしかわの工芸 文化の深み ～わざの美 表現の美～

11月8日(日)～12月20日(日) 会期中無休

秋の県美は工芸づくしです。「いしかわの工芸 歴史の厚み」加州刀と加賀の工芸」展の後は、第六十七回日本伝統工芸展金沢展(十月二十三日～十一月三日)を挟んで、企画展「いしかわの工芸 文化の深み」わざの美 表現の美」を開催します。本展覧会は、近世以前のいしかわの工芸を紹介した「歴史の厚み」展を受けて、近現代のいしかわの工芸の多様な広がりをご覧いただくものです。「わざの美」は、藩政期から連綿と受け継がれた伝統のわざと現代的な感性が融合した工芸の美を、「表現の美」は、自己の想像力と工芸素材の相剋による表現の数々をご覧いただきます。



松田権六《松蒔絵飾箱》



蓮田修吾郎《モニュメント「ある都市空間へ」》

名物裂とは、わが国に舶載された裂のうち、特に珍重された裂の総称です。これらは書画の表装に用いられたほか、特に茶器の仕覆として愛でられました。茶人愛用の裂地に『珠光緞子』『遠州緞子』などの固有の名称がつくのは、こうした由来があるからです。

前田家は、三代利常の時代の寛永十四年(一六三七)、町人に見立てた家臣を長崎へ遣わせ、「銀子二十枚」で「古き唐織の切」を買います。『三壺聞書』という史料には、この時「有るに任せて価値は買取りて、利常の「御機嫌殊の外よかりける」とあることから、買い求めた大量の裂に、利常が非常に満足したことがわかります。事実、前田家が収集した名物裂コレクションは、今日でも国内最高の

量と質を誇るのです。

その証のひとつといえるのが、裂の中でも特に古い時代の「古渡裂」で仕立てた能装束の存在です。嘉永五年(一八五二)、前田家が家祖と崇める菅原道真の九五〇年忌にあわせて、十三代斉泰が創作した能(来殿)用に仕立てられました。異国情緒漂う蜀江模様の裂が用いられています。名物裂を用いて仕立てられた能装束とは、他に例がありません。

今回の展示では、金襴・緞子・間道だけでなく、京都清水寺の帳として用いられたという由来を持つ錦「清水裂」や、「有柄川錦」をあわせて特別に紹介します。

《清水裂》

第5展示室【近現代工芸】

優品選 I

9月5日(土)～10月18日(日) 会期中無休

この会期では、当初「風景をたずねて」という特集を予定していましたが、企画展示室にて「いしかわの工芸 歴史の厚み」が開催されるのに合わせて内容を少し変更しました。次の優品選Ⅱ(会期…十月二十三日～十一月十五日)と併せて、石川の近現代工芸を、総合的にご紹介するとともに、普段まとまってご覧いただく機会の少ない染色パネルを、展示替えしながら公開します。

展示室の中央に並ぶ独立展示ケースを中心に、陶磁、漆工、染織、金工、木竹工、人形といった石川の近現代工芸をご紹介します。コーナーとなります。陶磁と金工の作品はⅠ・Ⅱ期とも通期で展示し、漆工、染織、木竹工、人形は作品をすべて入れ替えます。Ⅰ期のおすすめ作品は寺井直次《雷鳥の図箱》です。本作品は昭和三十年の第十一回日展で北斗賞を受賞したもので、張りのある器形にデフォルメされた雷鳥の姿がマッチしています。



寺井直次《雷鳥の図箱》

第2展示室【古美術】

琳派

9月5日(土)～10月18日(日) 会期中無休

琳派は、十七世紀初頭に刀剣の鑑定などを家職とする本阿弥光悦が中心となって京都で推進した造形運動を端緒として、後水尾天皇が主導した寛永文化で活躍した俵屋宗達によって表現様式が確立され、光悦、宗達に私淑した尾形光琳によってデザインとしても広く愛好されるようになりました。また、加賀藩三代藩主・前田利常は宗達の後継者、宗雪に重要な仕事を発注し、宗雪とその後継者、喜多川相説は金沢を拠点として作画にあたったと考えられています。こうして琳派ゆかりの地の美術館として、当館は旧館以来、琳派関係の展示に意欲的に取り組んできました。

《風神雷神図》など宗達や光琳の代表作は、いずれも親しみやすい装飾性に特徴がありますが、構図は極めて入念に計算されています。また今回展示する宗達の《横檜図》(県文)は厳格な原則によって画面を

構成しています。そこで今回は、こうした大らかな表現の背後にある冷徹さが、本阿弥家の家職である刀剣の鑑定に関わる、透徹した観察眼と照応するのはないかとの観点から、鑑定の参考にするために刀剣を写生した重要美術品の《刀絵図》も展示します。作者の本阿弥光徳(一五五六～一六一九)は、桃山から江戸時代前期の刀剣鑑定家で、本阿弥光利の長男です。本阿弥宗家の九代にあたり、分家の光悦とは従兄弟の関係となります。豊臣秀吉に信任され、慶長の初めごろ刀剣極め所と折紙発行を許可され、その後徳川家康に仕えています。この《刀絵図》には、秀吉の蔵刀四十口が収録されています。

その他今回は、光悦・宗達の合作とされる《光悦色紙貼交秋草図》(県文)や宗雪の《群鶴図》(県文)も展示し、琳派の草創期から加賀における展開を概観します。



県文《横檜図》 俵屋宗達

優品選

9月5日(土)～10月18日(日) 会期中無休

四季のなかでも秋は、日本画にとって格好のモチーフです。紅葉や実りの秋という言葉などに見られる彩りの豊かさに加え、厳しい冬へと向かう寂しさのアンバランスが日本人の情感に訴えるのです。展示では「白山の画家」玉井敬泉が描く《山の秋》や、下村正一《秋》など、大正から昭和初期にかけての作品も楽しんでいただきます。

油彩画からは藤井肇《こんなにまで》を紹介いたします。藤井は金沢美術工芸大学油絵科を卒業後、主に個展を中心に活動。昭和五十一年には日本海造形会議を結成し、事務局長として企画・運営に奔走します。藤井の作品からは、既存の価値観からの脱却を制作のモチベーションとした、藤井の人生観が垣間見れます。

「身体」は彫刻の基本としてすべての作家が通ってきた道といえますが、彫刻部門では今回、人体をモチーフとした作品のなかでも当館の個性派を集めてみました。人体と楽器が融合したようなフォルムが美しい木村珪二《鳴器》、女性の身体や性をテーマとした作品をつくり続けた堀義雄《女(へ)》などを展示いたします。

実りの秋に向かうこの季節、脇田和の果物等をモチーフにした版画作品を展示いたします。ドイツでの美術学校時代からずっと続けてきた、脇田の版画制作。リトグラフ、メゾチント、シルクスクリーンなど様々な手法の作品をご紹介します。「画家であり版画家」といわれた脇田の、技法を超えた版画への表現意欲をお楽しみください。



藤井肇 《こんなにまで》

くらしと風景と

9月5日(土)～10月18日(日) 会期中無休

純粹美術の各分野における「風景」をテーマとした特集展示です。「くらしと風景」と題し、近現代絵画と彫刻部門から選んだ作品をいくつかご紹介します。

まず、油彩画からは中村研一《夏庭》を紹介いたします。中村は東京美術学校西洋画科を卒業し、帝展と日展を舞台に活躍。晩年は初代徳田八十吉から、石川県の伝統工芸である九谷焼の絵付け技法を学びました。九谷五彩と呼ばれる鮮やかな彩色表現を油彩表現に応用することを試み、重厚で風格ある作風を確立します。《夏庭》からは、中村の油彩表現に対する旺盛な探求心が見てとれます。

彫刻からは吉田三郎《子供群像》を紹介いたします。この作品は「横浜市水道発展記念台」として制作された作品と同じ原型からつくられています。水瓶を持つ

て遊ぶ子どもたちの姿がほほえましく、腹掛け姿の幼児がみられるなど、制作された一九五〇年代の風俗もうかがえます。山並みのように変化のあるこのかたちは実は、横浜市の水道における供給水量の拡大をあらわしたグラフに対応するようになっていきます。生き生きとした子どもたちの姿を水道拡張の歴史に見立てるといふアイデアに脱帽です。まさに、くらしを反映した作品といえるでしょう。

日本画では人々の「暮らし」を感じることが出来る風景画を選んでみました。坂根克介《寄港》にみられる作画傾向は、現代日本の風景を構成的に表現する昭和三十〜四十年代に見られた手法であり、時代性を感じさせます。

その他、佐々木三六の水彩画など、各時代を映し出す風景画の数々をご覧ください。



吉田三郎 《子供群像》

9月以降の展覧会予定について

2F

前田信徳会
尊経閣文庫分館
第2展示室
古美術
第3～6展示室
近現代絵画・彫刻・書・工芸

9/5 (土) - 10/18 (日)	10/23 (金) - 11/15 (日)	11/19 (木) - 12/20 (日)	1/4 (月) - 2/7 (日)	2/13 (土) - 3/19 (金)
特別陳列 前田家の名物裂	特別陳列 加賀藩の 美術工芸 I	特別陳列 加賀藩の美術工芸 II	新春優品選	前田家の天神信仰
琳派	石川の文化財 I	石川の文化財 II	新春優品選	古九谷・再興九谷名品選
優品選 I 【工芸】	優品選 II 【工芸】	特別陳列 きらめく美 北陸ゆかりの職金作家たち 【工芸】	新春優品選 【工芸】	はこ・箱・hako さまざまな素材とわざ 【工芸】
くらしと風景と 【絵画・彫刻】	日本画のてびき 技法、趣向、エトセトラ 【絵画】	人物画の世界 【絵画】	書をあじわう 【書】	特別陳列 静けさが形となる時 西田藤夫 イタリア 40年 【絵画】
優品選 【絵画・彫刻】	優品選 【絵画・彫刻】	優品選 【絵画・彫刻】	優品選 【絵画・彫刻】	優品選 【絵画・彫刻】

月 休館日 9 ㊦1(火)-4(金) 10 ㊦19(月)-22(木) 11 休館日なし 12 ㊦21(月)-31(木) 1 ㊦1(金)祝-3(日) 2 ㊦8(月)-10(水) 3 ㊦20(土)-23(火)

1F

第7～9展示室
企画展

いしかわの工芸 歴史の厚み ～加州刀と加賀の工芸～ 9月12日(土) ～10月18日(日)	第67回 日本伝統工芸展 金沢展 10月23日(金) ～11月3日(火)祝	いしかわの工芸 文化の深み ～わざの美 表現の美～ 11月8日(日) ～12月20日(日)	花木にみる 日本美の心 1月4日(月) ～2月7日(日)	生誕140年 熊谷守一展 2月11日(木)祝 ～3月14日(日)
---	---	---	------------------------------------	--

年頭よりひろまった新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、本年の展覧会は企画展、コレクション展ともに変更せざるを得なくなりました。当初予定していた展覧会は九月以降上表の通りとなります。二重線で囲んだ部分の変更となった展覧会です。今後も状況次第で内容や会期が変更となる場合がございますので、当館ウェブサイト等で最新の状況をご確認の上、ご来館いただきますようお願いいたします。

◆「令和二年度石川県立美術館主催企画展入場券」について

友の会会員のみなさまには、入会時もしくは更新時に左図のような「石川県立美術館主催企画展入場券」をお渡ししています。

新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、展覧会の予定が年度初めの計画から、大幅に変更となりました。「令和二年度石川県立美術館主催企画展入場券」に記載はありませんが、こちらの入場券にて、九月以降ご鑑賞可能な展覧会は、以下の通りとなっております。

ご確認の上、ご使用いただきますようお願いいたします。

● 「いしかわの工芸 歴史の厚み ～加州刀と加賀の工芸～」

九月十二日(土) ～十月十八日(日)

● 「いしかわの工芸 文化の深み ～わざの美 表現の美～」

十一月八日(日) ～十二月二〇日(日)

● 「花木にみる 日本美の心」

一月四日(月) ～二月七日(日)

令和2年度 石川県立美術館主催企画展入場券	令和2年度 石川県立美術館主催企画展入場券
下記のいずれか一つの展覧会にご利用いただけます。 4/19(日)～5/17(日) かお・すかた・ころも いしかわゆかりの肖像 6/20(土)～7/19(日) 没後35年 鶴居玲 ー 静止した時 ー 7/25(土)～8/30(日) 加賀百万石 文武の誉れ ー 歴史と継承 ー (仮) 11/8(日)～12/20(日) うるはしきもの・めでたきわざ ー 北陸の芸術家・人間国宝 ー 1/4(月)～2/7(日) 花木にみる日本美の心 ・本券を企画展受付にお出しください。 ・会員に限らずご来館いただけます。 石川県立美術館本館の会 〒920-0963 金沢市出羽町2-1 TEL (076)231-7580 ①	下記のいずれか一つの展覧会にご利用いただけます。 4/19(日)～5/17(日) かお・すかた・ころも いしかわゆかりの肖像 6/20(土)～7/19(日) 没後35年 鶴居玲 ー 静止した時 ー 7/25(土)～8/30(日) 加賀百万石 文武の誉れ ー 歴史と継承 ー (仮) 11/8(日)～12/20(日) うるはしきもの・めでたきわざ ー 北陸の芸術家・人間国宝 ー 1/4(月)～2/7(日) 花木にみる日本美の心 ・本券を企画展受付にお出しください。 ・会員に限らずご来館いただけます。 石川県立美術館本館の会 〒920-0963 金沢市出羽町2-1 TEL (076)231-7580 ②

令和二年度石川県立美術館主催企画展入場券

美術館のお仕事紹介(蛍光灯の交換編)

美術館で天井を見上げてみたことはありませんか？石川県立美術館の天井には細長い蛍光灯がたくさんついています。同じ蛍光灯をずっと使い続けると、明かりがチラチラしたり突然消えたりする可能性があります。このようなことを防ぐために、当館では時期を決めて、一斉に蛍光灯を交換しています。

まず、紙の筒に入っている蛍光灯を一本一本取り出します。使う蛍光灯の数は、一つの展示室につき、なんと約四百本！量が多いので、何人もの職員で取り出していきます。左の写真を見ていただくと、そのボリュームがわかると思います。

四百本×部屋数の蛍光灯が準備できたら、いよいよ交換作業です。蛍光灯は、天井の蛍光灯カバーの中に収まっています。作業としては、車輪つきの高いタワー(「やぐら」と呼んでいます)にのぼり、ドライバーでカバーを開け、古いものと交換、そしてまたカバーを閉める…という作業を二人組で進めます。電気の近くでの作業なので、とにかく暑い。汗だくになりながらの作業になります。ちなみに、設置の際は蛍光灯のマークの向きをそろえていることも付け足しておきます。わざわざ天井を見上げ、向きがそろっているかどうかを気にするお客様もなかなかいらつしやらないと思いますが、とにかく美しく設置することにも私たちは気を遣っているのです。

すべて交換できたら、作業完了です！一度交換すれば、何年かは問題なく点灯してくれるでしょう。ちなみに、当館で使っている蛍光灯は、紫外線を出さないため作品をいためない美術館・博物館専用の蛍光灯です。作品に優しく、見た目も美しく。快適に鑑賞できる環境づくりを目指しています。



たくさんの蛍光灯を使います！



交換作業中です

9月の行事予定

■土曜講座		13時30分～15時	美術館ホール	無料
12日(土)	「首里城復元 ―今英男と井波彫刻の技―」		担当課長	鶴野俊哉
19日(土)	「近代日本の風景画のはじまり」		普及課長	深山千尋
26日(土)	「正木直彦《十三松堂閑話録》を読む」	学芸主任	中澤菜見子	
■映像ギャラリー		14時30分～15時30分	美術館ホール	無料
6日(日)	「日本美術史 江戸時代の絵画」(28分) 「日本の美 琳派の系譜」(29分)			
13日(日)	「日本美術史 密教美術の成立」(24分) 「京都の名刹 東寺」(26分)			
20日(日)	「水墨大全 琳派と江戸前期の風景画」(60分)			

講座等ご参加にあたっての注意事項

- ① 来館時にサーモグラフィによる体温チェックを行います。体温が三十七度五分を超える方の参加はご遠慮ください。
- ② マスクの着用、手指消毒の徹底をお願いします。
- ③ 密集を避けるため、前後両隣の席を空けての着席をお願いいたします。
- ④ ホール内では会話を極力ご遠慮ください。
- ⑤ 参加時は受付名簿に氏名と連絡先をご記載ください。

《実る丘》みのるおか

二曲一隻 縦154cm 横136cm
昭和61年(1986) 第18回改組日展

堀友三郎 ほり・ともさぶろう

大正13年(1924)～平成26年(2014)



真っ白な花畑が見通せるかぎりずっと続く丘、これはいったいどの景色なのでしょう。星形の花弁と黄色の花蕊を持つこの花は、おそらくジャガイモの花でしょう。はるか向こうの丘まで続く広大なジャガイモ畑です。その合間で鮮烈な黄金色に輝いているのは、豊かな実りを迎えた麦畑ではないでしょうか。ジャガイモの花が咲き、麦が実るこの丘は、初夏のようです。なだらかな丘が幾重にも連なる波状丘陵と、その大地に広がるジャガイモ畑と麦畑の風景は、日本であるとするならば北海道でしょう。丘の町として有名な美瑛町の風景かもしれません。

本作品は、前景にジャガイモの花が具象的に描かれる一方、遠景では丘の曲線と畑の白と黄、空の青の色面が、抽象的な構図を形作っています。具象と

抽象が調和した画面構成は、堀の作品において八十年代から現れてくるもので、本作品も自然美と画面構成による美がうまくまじりあっています。

堀友三郎は大阪府生まれで、父は金沢出身です。昭和十六年に多摩美術専門学校図案科に入学し、染色家の木村和一に師事します。光風会展や日展で活躍し、三十五年には日展特選北斗賞を受賞します。インジゴゾール染料による糊染めと洗いを繰り返す、多層構造の空間表現を確立し、奥行きや広がりを感じさせる詩情豊かな風景作品を発表しました。制作にあたってはスケッチを重視し、旅行にはスケッチ道具を欠かさなかったといえます。画家の中村研一、琢二兄弟は母方の叔父にあたります。第5展示室で開催中の「優品選Ⅰ」にて展示中です。

次回の展覧会

令和2年10月23日(金)
～11月15日(日)
会期中無休

	前田育徳会 尊経閣文庫分館	第2展示室
	加賀藩の美術工芸Ⅰ	石川の文化財Ⅰ
第3・4展示室	第5展示室	第6展示室
優品選 【近現代絵画・彫刻】	優品選Ⅱ 【近現代工芸】	日本画のてびき 技法、趣向、エトセトラ 【近現代絵画】

ご利用案内

コレクション展観覧料

一般 370円(290円)
大学生 290円(230円)
高校生以下 無料
※()内は団体料金
9月7日は第1月曜日より
コレクション展示室無料の日

9月の開館時間

午前9:30～午後6:00

カフェ営業時間

午前10:00～午後6:00 年中無休

9月の休館日は
1日(火)～4日(金)

「石川県立美術館だより」に広告を掲載しませんか?

石川県立美術館友の会会員、石川県立美術館協力者、
県内各行政機関及び文化施設、全国の美術館・博物館へ

郵送配布!! 3,000部発行

ターゲットを狙った
知名度向上県立美術館発行の
信頼度の高い広報媒体

お問い合わせは ☎092-716-1401

株式会社ホープ 福岡県福岡市中央区薬院1-14-5MG薬院ビル7F
東京証券取引所マザーズ上場 福岡証券取引所Q-Board上場 財務確保 株票石川県立美術館だより
第443号(毎月発行)
2020年9月1日発行
〒920-0963
金沢市出羽町2番1号
Tel:076(231)7580
Fax:076(224)9550
URL <http://www.ishiki.pref.ishikawa.jp/>石川県立美術館は電源立地地域対策
交付金を活用して運営しています。